



目次

CONTENTS

カテゴリ	内 容	掲載ページ
挨拶	学長挨拶	03
連載	大阪薬科大学の研究は今②「本学の脳・神経研究」	04
トピックス	NEWキャラクター紹介「だいやくん」	05
連載	応援隊長だいやくんの「大薬の足跡を追いかけろ」	06-08
	OB・OGの活躍	09
報告	五大学連携活動状況	10
	三大学医工薬連携科学教育研究機構の活動状況(その13)	
	がんプロ事業活動報告	11
キャンパスニュース	・第52回大薬祭「colorful」を終えて ・第13回大阪薬科大学特待奨学生表彰 ・平成29年度 大阪薬科大学特待奨学金 表彰者一覧	12
	・人権講演会「インターネットと人権侵害」 ・国際交流基金助成事業について	13
	・「関西薬連・全国薬連大会」結果(平成29年度)	14
	学生相談室だより つくり笑顔も悪くないー笑いの効用ー	14
	キャリアサポート課だより	15
	・献血者の推移 ・平成29年度学位授与 ・平成29年度公開授業の日程 ・大阪薬科大学シーズ集2017 ・平成29年度実験動物慰霊祭	16
	・平成29年度大阪薬科大学生涯学習事業を終えて	17
	・オープンキャンパス2017報告	18
連載	クラブ紹介「大阪薬科大学コーラス部」	19
	大薬にまつわるエトセトラ	20-21
ピックアップ	クローズアップYAKUDAI	22
挨拶	就任の挨拶	23
キャンパスニュース	・地域連携 ・「第6回大阪薬科大学学術講演会in 東京」のご案内 ・本学の社会貢献活動ー市民講座委員会からの実施報告ー ・メディアへの掲載・放送等	24
	・防災訓練の実施について ・平成29年度ひらめき☆ときめきサイエンスを開催しました ・LED工事を行いました ・人事・慶弔	25
	フロムLibrary	26
	こちら広報室	
	平成29年度 後期行事予定	27
	薬用植物の紹介「サンシュユ」	巻末
	編集後記	



大阪薬科大学は、2016(平成28)年度に一般社団法人薬学教育評価機構の認証評価を受け、同機構の評価基準に適合していると認定されました。

認定期間
2017(平成29)年4月1日より
2024(平成36)年3月31日



本学は公益財団法人大学基準協会による2011(平成23)年度認証評価の結果、2012(平成24)年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間
2012(平成24)年4月1日より
2019(平成31)年3月31日

Message from the President

名門大阪薬科大学の 復活を目指して

学長 政田 幹夫

こちらに赴任して早や3年の月日が流れてしまった。薬学教育・薬剤師教育も薬学部教官として30年以上前に在籍していた頃と比べ全く様変わりし、特に私立薬系大学では6年制薬学教育が主流となり、さらに3年前からは新コア・カリキュラムの下、基礎薬学を基本とした臨床教育に重点が置かれるようになった。更に、関西以西の西日本の私立薬系大学の数も11校(摂南大学薬学部開設時)から24校(国立大学は8校と不変)に倍増したが、教える側・教わる側双方ともに量・質ともに良くなったのだろうか？甚だ疑問である。

ここ数年、文部科学省は、現在、一般紙・業界紙等に掲載されている見かけの薬剤師国家試験合格率(多数の留年者・卒業延期者を除き、見かけ上の合格率を上げる為の方策を施した結果の合格率)でなく、標準修業年限内(標準修業年の6年間で無事卒業し薬剤師国家試験にも合格)合格率を各大学のホームページ上に公開を義務付け、文部科学省のホームページ上にも公開することを始めたところである(西日本の各大学は全て報告されているが、東日本の大学は未報告の大学が多数有り集計不能)。ホームページをご覧になればお判りになると思うが、西日本における今年春の第102回薬剤師国家試験における標準修業年度内合格率80%以上を誇る私立薬系大学は無く(国立大学は8校中6校有)、逆に50%以下(入学した学生の半分以下の者しか標準修業年度内に薬剤師国家試験に合格しない)の私立薬系大学が半分以上の13校を占めるという状態であり、薬学の将来は……。



先日の育友会役員会において最近の我が校は国試が振るわないのではとの指摘を受けた。本学は、標準修業年度内の合格率は68.9%で西日本私立薬系大学24校中5位であるが、決して満足いくものではない。何故このような事態になったのかを充分に考え、教える側・教わる側共に直すべきところを直していく覚悟を持って改革しなければならない。2016年には臨床薬学教育センター並びに基礎薬学教育センター(2018年からは薬学教育センターに改編)、2017年には生涯学習センターを設置、更に2015年赴任以降他大学より12名の教授・准教授・講師以上の教員、本学から6名の教授・准教授の教員を新たな研究室・センターに配属。また4名の教員の教授・准教授昇任。助教に関しては新規に4名、助手からの昇任8名。助手として新規に3名を迎え入れ、体制を整えているところである。教育においても大阪医科大学と法人合併したことによる専門職連携教育(IPE; Inter Professional Education)の充実を試みているところであり、2018年入学より1年次に医・薬・看合同講義「医療人マインド」を、2年次にグループワーク「多職種連携医療論」、6年次にチーム医療教育「医・薬・看融合ゼミ」を開講することを決定した。更に新コア・カリキュラムの8疾患を学ぶべく、4年次から6年次にかけて「統合薬学演習」を組み込み全教職員・全学生が一体となって名門大阪薬科大学復活を目指し頑張っていく所存です。よろしくお願ひします。

大阪薬科大学の研究は今②

本学の脳・神経研究

薬品作用解析学研究室 教授 大野 行弘

学生の皆さんは、普段授業を受けている先生方がどのような研究を行っているか、知っていますか？大学は教育研究の機関で、教育(授業、演習、実習など)のみでなく、研究機関としても科学の発展に寄与し、その成果を地域や社会に発信して行く義務があります。特に、医療系大学である本学は、最終的には病気で困っておられる患者さんに報いられるよう、創薬や薬物治療の面で社会に貢献して行く必要があります。こうした背景から、多くの先生方が日々研究に取り組まれています。学生の皆さんには是非、どの先生がどういった研究を行っているか知って頂き(大学の研究室ホームページで確認できます)、興味があれば研究室の扉を叩いて、研究の魅力に触れてもらえればと思います。

さて今回は、B棟(研究棟)3階の薬品作用解析学研究室から、本学の「脳・神経研究」について紹介します。脳は体の最高司令塔で、数千億個の「神経細胞(ニューロン)」が神経ネットワークを形成しています。さらに、脳内には神経細胞数の50倍もの「グリア細胞」が存在しており、「ニューロン-グリア間のクロストーク」とも言われる相互作用を介して、ヒトの思考や創造力、精神機能、認知機能、運動機能、知覚機能などを調節しています(図1)。脳・神経疾患については、超高齢化に直面している日本では、アルツハイマー病型認知症やパーキンソン病など「神経変性疾患」の患者数が急増しています。また、高度なストレス社会でもある現代においては、うつ病や不安障害といった「気分障害」に苦しむ患者数も急増しています。私たちの研究室では、ヒトの精神・運動機能の調節に重要な役割を果たしている「ドパミン神経」と「セロトニン神経」に着目し、「統合失調症」、「うつ病」、「パーキンソン病」等の新たな治療法開発に挑戦しています(図1)。また、「てんかん」の治療に新たなパラダイムシフトを起こすべく、「グリア細胞」の機能に着目した神経薬理研究に注力しています。特に最近では、国立6大学医学部および3医療機関と共同してAMED(国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)の班研究を展開しており、「難治性てんかん病態におけるグリア機能の解明と診療ガイドライン作成研究」という基礎・臨床包括型の研究に取り組み、多くの研究成果を国内外に発信しています(図2)。私たちの研究室には本学出身の学生以外にも、ブラジル・サンパウロ大学からの国費留学生や、京都大学医学部、和歌山県立医科大学からの国内留学生

(神経内科医師)も来ており、皆で丸となって楽しく研究に励んでおります。こういった神経薬理研究に興味のある学生諸君は、どうぞ気楽に訪ねてみてください。研究室への配属、大学院への進学もお待ちしています。

学生の皆さんには、大学に入った当初、薬剤師になる夢と同時に、医学・薬学研究者になりたい志を持っていた方も多いと思います。しかし、授業科目も多くなり、かつ、低学年では研究をふれる機会がほとんどないため、研究への興味が一度忘れ去られてしまうように思われます。学生の皆さんには、どうか貴重な「研究への興味」を忘れずに、4年次から配属する研究室をしっかりと選んで、将来に繋がる研究に挑戦してください。多くの皆さんが、「研究のできる薬剤師」に育ってもらえればと祈念しています。



NEWキャラクター現る!

大阪薬科大学キャンパス内に生息する
非公式キャラクター

その名は

「だいやくん」



PROFILE

名前:だいやくん

種類:くま

性別:男の子

年齢:不詳。少年から青年に差し掛かる微妙な年頃

みんな一緒に
輝こう!

STORY

お母さんクマとはぐれ、北摂山系の山の中を彷徨っていた子グマは、大阪薬科大学の裏山に辿り着く。遠くから学生が勉強する姿やクラブ活動で頑張っている姿を見ているうちに、お母さんクマとはぐれた悲しさもひとりぼっちの寂しさもだんだんと薄れて行って、みんなと仲良くなりたいという気持ちが沸々と沸き上がるようになる。

ある日、思い切って「この大学のお役に立ちたいです!」とオファーを出す。一生懸命なお願いが通じて、取り敢えずキャンパス内で暮らすことを許してもらう。そして、「大薬」にちなんで「だいやくん」という名前をもらう。

ある朝起きると顔に大薬シンボルマーク、耳とほっぺたにも☆マークが散りばめられた姿に変身していた。不思議に思っていると大学の人に呼び出され、ダイヤモンドを渡される。これは、『大薬生のみんなは可能性を秘めたダイヤモンドの原石で、大阪薬科大学でのキャンパスライフで磨かれて、将来ダイヤモンドのように光輝いて欲しい。』という大学の願いがこめられたものだった。だいやくんはその願いがかなうよう、このダイヤモンドを抱きしめて「みんな頑張れ〜!」と陰から見守る応援隊長に任命されたのだった。

というわけで、応援隊長に任命されただいやくんは「お役に立ちますシリーズ第一弾」として、今号学報からスタートする新企画に登場することとなりました。

さあ、だいやくんと一緒に新しい扉を開けよう!

Let's Open The Next Door

お気に入りのサングラスは
実験用ゴーグル

ある日突然おでこに
シンボルマークが現れた!

おハナの形はハート形♥

モットーはいつもスマイル

ピン!と立った耳で
情報をキャッチ!

自慢の2重まぶたに
パッチリお目目で
みんなを見守るよ

少しでもみんなに近づけるよう
白衣をまとっているよ

僕とダイヤモンドはいつも一緒

ボクはまだ野球というなら育成選手。早く支配下登録されるようにがんばるぞ!

応援隊長だいやくんの

大薬の足跡を追いかける！

「道修町：先人の想いに触れ、そして感じてください」編



創立113年の長い歴史を誇る大阪薬科大学。ここで学んでいる学生の皆さんは大学のルーツを知っていますか？自校教育への取り組みが盛んに行われている昨今、本学でも自分が学んでいる大学の歴史に触れてもらいたいという思いから、本学の歴史を辿る企画を用意しました。さあ、知っている人も知らない人も応援隊長だいやくんと一緒にしばし歴史探訪のショートトリップに出かけましょう。

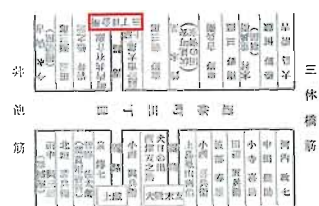
礎はこの地に

大阪市中央区道修町。大薬生なら何と読むかわかりますよね。「どしよまち」です。道修町といえば、「くすりの街」として全国的に有名です。その昔は、薬問屋が軒を並べていましたが、現在もいくつもの大手製薬会社が社屋を構えています。我が大阪薬科大学のスタート地点もこの地にあるということを知っていますか？

明治37(1904)年5月9日。大阪市北区今井町にあった私立大阪薬学校(大阪大学薬学部の前身)の選科への道が開けていた夜間の講習会「大阪薬学講習会」は、私立大阪薬学校の夜の校舎を利用して指導に当たっていましたが、私立大阪薬学校が大阪市北区上福島へ移転した後は、今井町の跡地を借用して夜間で活動を続けていました。この日、大阪府知事から正式に「大阪道修薬学校」設立の認可が下り、創設者である平山松治氏、大島太郎氏、秋山卓爾氏の「中学校に上がることなく店員として薬業界で働く若者に薬剤師の資格を持たせてあげたい。そのための予備教育を受けさせてあげたい。」という熱い想いが成就した日となりました。そして、大阪道修薬学校は当時の道修町3丁目の住民共有地の中にあった町内の会所(寄り場)を借り受け、夜間男子校としてスタート

を切りました。

ここに、創立した明治37(1904)年当時の道修町の家並みの地図があります。道修町3丁目筋の眞野一郎邸と町内共有倉庫に挟まれた細い路地の奥に「三丁目会所」の文字が認められ、この場所が「大阪道修薬学校」が設立された最初の場所であるということになります。それは、学校と呼ばれるには余りにも狭く、暗い場所であったと想像できます。



出典：薬業往来社「道修町」
「くすりの道修町資料館」展示地図

この場所は現在、塩野義製薬株式会社の敷地内にあります。平成16(2004)年の本学創立100周年時には、記念事業の一環として「発祥の地の記念碑」を同社のご協力のもと、玄関協に建立しました。

道修町の地に留まったのは、わずか4年間ではありましたが、大阪薬科大学の礎は確かにここに息づいています。

道修町で産声を上げた大阪道修薬学校でしたが、創立から3年後には入学者が急増したと思われ、隣町の内淡路町に分校を設置し、翌年には南久太郎町へ校舎を移すこととなります。



碑は玄関向かって左手にあるが、当該会所は本社正面中央奥にあったと思われる。



女学校のイメージが強かったけれど、最初は男子校だったんだね。

■先人の想いに触れる

ここで、創設に尽力した諸氏について触れておきましょう。まず、平山松治氏。当時の薬学教育界は、明治の文明開化の風潮が広まる中、大きく遅れをとっており、その状況を憂う帝国大学(現東京大学)薬学科出身で当時内務省大阪衛生試験所長であった平山氏は古くからの薬舗の街である道修町に薬剤師を志す子弟のために夜学を開こうと考え、明治37(1904)年5月9日に認可を得て、「大阪道修薬学校」を開校し、同時に初代校主となりました。当初から経営状態は決して容易なものではなく、17年後の大正10(1921)年に廃校を宣言することとなり、校主のバトンを秋山卓爾氏に繋ぐこととなるのですが、この間、男女併せて900名者薬剤師国家試験合格者を輩出したことは平山氏の大きな功績と言えるでしょう。

そして、次に大島太郎氏。東京帝国大学(現東京大学)薬学科出身の大島氏は創設時、大阪薬学校(現大阪大学)の講師でしたが、初代校長を兼務することとなり、平山氏と共に経営の責任を分け合って来ました。

校主・平山松治氏、校長・大島太郎氏と共に、大阪道修薬学校を支えたもう1人の功労者は秋山卓爾氏です。秋山氏は、大阪共立薬学校(後の大阪薬学校 現大阪大学)に学んだ後、内務省に入り、その後、平山氏の下の大阪衛生試験所に勤務することとなります。そのような繋がりから平山氏に協力し、大阪道修薬学校の設立者の

1人となりました。設立時は教務・校務を担当していましたが、前述のとおり17年後の大正10(1921)年に平山氏が学校を去った後、後を継いで校主になります。この後、未曾有の困難に遭うこととなるのですが、こちらのお話は次号の「南久太郎町編」に引き継ぎたいと思います。

大阪道修薬学校設立の目的は、先に述べたように「中学校に上がることなく店員として薬業界で働く若者に薬剤師の資格を持たせてあげたい。そのための予備教育を受けさせてあげたい。」でした。もちろん、創設に尽力した3氏の熱い想いだけでは大願が叶うはずもなく、その他多くの方々のご尽力の賜物であることは言うまでもありません。しかし、創立の祖として功労者の3氏の存在は、後世にも語り継いで行かねばなりません。学生の皆さんにもこの3氏の名前を心に刻んでもらえれば幸いです。



平山松治氏



大島太郎氏



秋山卓爾氏

「平山松治」をウィキペディアで検索しても大阪薬科大学の文字は確認できないなあ。何だか寂しいなあ。



プレイバック2004

本学創立100周年を迎えた平成16(2004)年5月9日、本学発祥の地の記念碑の除幕式が道修町の塩野義製薬株式会社本社前で執り行われ、その席で当時の川島康生理事長が「卒業生はこの碑の前を通るたびに誇りを感じるだろうと」挨拶しました。



■年表(道修町時代)

明治37(1904).5.9	大阪市東区(現中央区)道修町に大阪道修薬学校(男子夜間課程)を創設
明治38(1905).9	女子部(昼間課程)を設置
明治40(1907).2.24	東区内淡路町に分校設置
明治41(1908).11.5	東区南久太郎町へ移転



道修町の石だたみにはこんなかわいいタイルが貼ってあるところも

道修町を訪ねてみよう

学生の皆さんは、勉強や研究、クラブ活動に忙しい日々を送っていると思いますが、一度道修町を訪ねてみてはいかがでしょうか。道修町は、日本の医薬品産業発祥の地と言われています。道修町通の2丁目、3丁目には約300メートルに亘って医薬品に関する展示施設があり、「道修町ミュージアム ストリート」と呼ばれています。これらの施設では、道修町の歴史や文化、くすりに関する資料、写真、道具類が展示されており、無料で公開されています。塩野義製薬株式会社玄関協の大阪薬科大学発祥の地の記念碑を起点として、各施設を回りながらゴールの少彦名神社まで道修町を存分に味わってみてください。そして、113年前、恐らく皆さんを同じような意志を抱いて道修町通を学校まで通っていた生徒に思いを馳せてみてください。



ボクも行って来たよ



神農祭探訪記

毎年、11月22日と23日の2日間、道修町の少彦名神社で「神農祭」が開催されます。今年もこの2日間、いつもはビジネスマンが往来する道修町界限にも露天が立ち並び、お祭りムードで盛り上がりました。

神農祭とは、家内無病息災を願うお祭りで、大阪では「大阪の祭は絵べっさんに始まって、神農さんで終わる」と言われ、大阪で行われる1年で一番最後のお祭りであることから「とめの祭」とも呼ばれているようです。

神農祭は、江戸時代に流行したコレラを鎮めるため、薬種仲間

が病除けの丸薬を作って神前に供えたことに由来すると言われています。また、丸薬とともに参拝者に張り子の虎を配ったとされ、以降、張り子の虎は家内無病息災のお守りとして今も受け継がれています。神社にお詣りすると、五葉笹に張り子の虎と少彦名神社の御札をつけた張子の虎を御守として授与してもらえます。



ハグが大好きな「たなみん」フワフワでキュートさNo.1



この細い路地の向こうに神社があります「打破山眠太郎」さんがカッコよくポーズを決めてくれました



露天が並び、賑わう道修町通



境内にはくすりを展示したショーケースもあります



少彦名神社には、医薬の神・少彦名命と薬祖神・神農様がお祀りされていて、医師国家試験、薬剤師国家試験の受験生が多く参拝に訪れるんだって。みんなも一度訪れてみて!



大阪薬科大学
6年次生薬剤師国家
試験全員合格
たいやくん



OB・OGの活躍

有機薬化学研究室 助教 米山 弘樹

今号のOB・OG訪問は、平成18年に大阪薬科大学薬学部製薬学科を卒業し、同大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程修了後、企業・調剤薬局で働いた後に本校に戻り、現在、大阪薬科大学・有機薬化学研究室で助教を務める、米山弘樹さん(35)を訪ねました。

■現在の仕事について教えてください。

私が今所属している有機薬化学研究室は、純粋に有機化学を行っており、合成反応を「手段」ではなく「目的」に研究活動を行っています。そんな中で私は、薬を「造る」ための新しい合成方法を「作り」、それを使って薬の候補となる化合物を「創る」仕事をしています。

まず、合成法を「作る」とは、有機化学の根幹であり、ソロモンの教科書に出てくる様な反応も応用して、新しい反応を生み出す研究です。最近はこの段階の研究を中心に行っており、いくつかの新規合成法の開発に成功しています。

次に、薬を「造る」ための有機化学のことを「プロセス化学」といいます。プロセス化学は作りたい構造をいかに綺麗で、簡単に、安く、安全に製造できるかを追求するもので、企業が特に力を入れる分野です。最近では、マイクロウェーブ発生装置を活用して反応時間の短縮に取り組んだりもしています。簡単に言うと、電子レンジでチンしてパッと化合物を作る研究です。

そして、薬の候補を「創る」有機化学のことを「メディシナルケミストリー」といいます。これはイメージしやすいと思いますが、多種多様な化合物をとにかく作り、それらの薬理活性を確認してゆき、より強い活性を示し、より高い選択性を示す、医薬品の候補となりうる新規化合物を探してゆく研究です。この研究がうまくいけば、新薬誕生や新しい機序の治療薬開発へと繋がるものです。

■どうやって現在の仕事についたのですか？

私の場合は運も味方したと思います。大学院時代、研究活動を続けたくてアカデミックな仕事を考えた時期もありましたが、当時は募集のかりそうな雰囲気も無く、その機会を待つには、家の事情もありましたので、諦めて企業への就職を選択しました。

大学院を修了してからすぐは、医薬品原料を作る会社で研究開発職として働いていました。リーマンショック直後ということもあり、入社直後から厳しい状況でしたが、20ヶ月ほど大手製薬メーカーと一緒に仕事をしていました。しかしというかやはり、事業の凍結となり、農業製造現場への異動となりました。その後いろいろあり、友人の調剤薬局へ転職し、薬局薬剤師として1年と少しの間、働いていました。薬局薬剤師として働いていた時に、春沢信哉教授から、助手募集の話があると声をかけていただき、すぐさま応募しました。任期付きで5年間、助手として務めた後に、助教として再雇用され、現在に至ります。

■大薬生時代の研究室生活はどうでしたか？

学生時代も今と同じ春沢研究室でした。私が在籍していた当時は「薬品合成化学研究室」という名称でした。その当時から「石橋を叩いて渡れ」とよく言われました。化学をやっている以上、誰がやっても同じ



ように出来るようにしないといけない。思い込みや、偶然が関与しないように気を付けながら研究活動を行っていました。そのせいもあって、「これは本当のことか?」とか、「もう少し証拠がほしいな」等、物事を疑ってかかる癖がついたと思います。これが意外と調剤薬局で働いているときに役に立ちました。処方箋は正しいものと思って見ていると見落としがちなミスも、疑いの目を持って視ていると見つけられることがあります。詳細は話せないのですが、とある薬を毎週少しずつ減量していた患者様がいました。ある日持参された処方箋は単独で見ると間違っていない処方箋でしたが、疑いの目で処方箋を見ていたため、引っ掛かりを感じ、調べたところ、先週と同じ内容のものだと分かり、疑義をかけたところ、間違いが判明したことがありました。

■大阪医大と法人合併しましたが、今後望むことは何ですか？

教職員の行き来が少しずつ増えてきていますし、連携授業もあります。同窓会も歩み寄り始めたところですし、後は、現役学生同士の交流の機会が増えるかどうかですね。お互いの学祭を行き来したり、共同企画を立ち上げたりと交流がもっと増えたらうれしいですね。薬剤師として働くにあたって、医者や友人は大きなアドバンテージになると思います。高校時代の友人に医者がいるので、話を聞くこともあるのですが、死に対する考え方や乗り越え方にはいろいろと刺激を受けました。単科大学では得難かった、他学部の友人を増やせる機会になればいいと思います。

■学生へのメッセージをお願いします

一つ知っておいて欲しい事として、薬剤師は医療関係者の中で唯一の「化学者」、つまり物質のプロであるという事です。医者のように薬を治療のための道具の一つと捉えるのとは異なり、薬剤師は薬そのものを化学的に理解している職業です。投与方法や製剤設計から保管・保存に至るまで、薬をどう使えばその能力を最大限に生かせるか、それを考えられるのが薬剤師です。また、患者様を前にして、飲み忘れや服用のし難さがあるとき、薬を正しく使ってもらうにはどうすればいいのか、を常に考えられる薬剤師になれば、AIにその職が奪われることはないと思っています。

アドバイスの事としては、今のうちに「失敗の経験値」を貯めていただく、という事です。失敗が許容されるのは学生としての特権です。今のうちに、どんどんチャレンジして沢山失敗してください。そのうえで、なんで失敗したのか、その本質をしっかりと自分の頭で考えてください。これは将来大きな財産になります。失敗の理由がわかれば、次に同じ失敗は繰り返さなくなり、その経験が貯まれば、そもそも失敗する前に失敗することが分かるようになり、失敗をしなくなっていくます。薬剤師はその失敗が健康や命に係わる仕事です。将来失敗を犯すぐらいなら今のうちにやっつけ、ということです。

五大学連携活動状況

文部科学省の平成20年度戦略的大学連携支援事業に選定されて以来、五大学連携事業は、関西の特色ある5つの大学(武庫川女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、関西大学)が相互に連携して、医療・福祉・工学・情報学など、複数分野にわたる高度な知識や技能を持った人材を育成するために、共通講座を開講してきました。その間、藍野大学と森ノ宮医療大学からの聴講生を受け入れ、広域大学連携事業として講義や実習を開講しています。リベラルアーツ教育プログラム、社会教育プログラム、理系女性人材育成プログラム、アクティブラーニングプログラム、プレプロフェッショナル教育プログラムの5つのプログラムがあり、プレプロフェッショナル教育プログラムが最も人気があります。プレプロフェッショナル教育プログラムは「臨床工医学入門コース」と「医学・医療入門コース」の専門科目から1科目、「理系英語入門」と「医学統計学入門」の共通科目から1科目の講義を受講するとともに、大阪大学医学部附属病院未来医療センターや国立循環器病研究センター研究所など8施設のうちから1つの実習を受講しなければなりません。また本年度は、リベラルアーツ教育プログラムとして「生命科学と倫理をめぐる知性と感性」、社会教育プログラムとして「地域活性化システム論」、理系女性人材育成プログラムとして「理系女性のキャリアパス設計論」、

五大学連携事業担当 井上 晴嗣

アクティブラーニングプログラムとして「他職種協働グループワーク実線論」が開講されました。広域大学連携科目は実習を除いて1プログラム15コマ以上あり、他大学では2単位とカウントされるのに対して、本学では1単位にしかカウントされないこと、また1プログラム1単位として2単位を限度とし、基礎教育科目の選択単位として加算されることなど、単位の面では不利な点がありますが、本学からは本年度も参加大学中で最も多い95名が受講しました。広域大学連携事業は本年度で10年間の事業を終了することになります。平成30年度からは、事業名も変更して新たな事業を開始し、本学も参加する予定になっています。



「理系女性のキャリアパス設計論」の様子

三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況 (その13)

准教授(特任) 銭田 晃一

高槻市にキャンパスを有する関西大学、大阪医科大学と本学が連携し、文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択され発足した三大学医工薬連環科学教育研究機構の取り組みも9年が経とうとしています。機構の活動は「分子から社会までの人間理解」をキーワードに三大学の学生に対して遠隔講義システムを用いた双方向講義、実習・施設見学など教育に関する取り組みを、高槻市など地域の方々に対して社会貢献事業を実施しています。

三大学の双方向講義は配信大学では授業を担当する教員は自大学の講義室で講義、学生はそれを同じ教室で受講し、他大学の学生は遠隔講義システムを用いて同時中継されている講義を自大学の教室で受講します。今年度前期は「医工薬連環科学」を三大学の教員がオムニバス形式で各大学から配信し、本学では2年次生42名が選択・履修しました。また、「基礎漢方薬学」を関西大学へ配信するとともに、7月11日に関西大学の受講生に対して本学C401実習室にて「補中益気湯」、「紫雲膏」の調剤実習と薬用植物園見学を実施しました。後期は本学から「生薬学」、「機能形態学1」、「応用放射化学」、大阪医科大学から「生命誌」、関西大学から「福祉工学概論」が配信されています。「福祉工学概論」は機構長でもある関西大学の倉田純一准教授の担当科目ですが、その1コマを本学D302講義室で講義し、関西大学に向けて配信という場面がありました(写真)。

社会貢献事業については「小学校への出張講義」、「自由研究コンテスト」、「三大学医工薬連環科学シンポジウム」など子どもから高齢者までを視野に入れた取り組みを行なっています。中でも小学生の科学への興味を高める理科実験の体験学習を中心とした「小学校への出張講義」はこの9年間で延べ177小学校、1万4,000名を超える見込みです。10月17日に実施された内容は高槻市のホームページに掲載され、マスコミにも取り上げられました。また、「自由研究コンテスト」は今年度小・中学生合わせて577件、平成26年度の697件に次ぐ応募があり11月19日(日)関西大学高槻ミューズキャンパスにおいて一次審査を通過した32作品の二次審査会(発表会)を行い、優秀な発表には各大学賞や高槻ロータリークラブ賞などが授与されました。

機構の活動内容や状況についてはWEBサイト(<http://www.kansai-u.ac.jp/mpes-3U>)にも掲載されていますので、是非ご覧になってみてください。



「福祉工学概論」本学にて

がんプロ事業活動報告

■文部科学省「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プラン」への参画について

本学では、平成24年度より、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に参画し、5年間活動を続けて参りました。

平成29年度、文部科学省は、新たに「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プラン」として第3期のがんプロ関連事業を開始することになり、本学は、大阪大学を拠点とする関西7大学の課題「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」に採択され、「ゲノム医療に精通し、重篤副作用の回避と疼痛の調節を行えるがん専門薬剤師の養成」を分担課題にして活動を開始することとなりました。

近年のがん医療には目覚ましい進展があります。がんに対する主要な治療法である手術・放射線治療・化学療法のいずれにおいても、技術面、また知識・情報の面や機器・医薬品等の面でも大きな進歩と改良、さらには新たな開発が行われました。まさにがん医療の最適化に向けて、診断・治療が大きく変化しつつあります。なかでも、がんの遺伝情報に関する研究とその臨床への応用は大きく、まさにがんはゲノム医療の対象となる時代を迎えたと言うことが出来ると思います。

本学では、このがんプロ事業の一環として、定期的に公開シンポジウムや勉強会を開催することとしています。

平成29年10月8日(日)には、関西大学梅田キャンパスで「がん患者に対して、ゲノム医療を手にした薬剤師ができることは何か？」をメインテーマにした第13回公開シンポジウム開催しました。

続いて、平成29年12月10日(日)には、大阪市立総合生涯学

習センター研修室において、「ライフステージに応じたがん医療のため、薬剤師は医療者としてどのようにがん患者に向き合うか？」をメインテーマにした第14回公開シンポジウムを開催しました。第3期より、開催場所を交通至便な梅田に移したことも功を奏し、いずれも多くの方にご参加いただき、大盛況となりました。次回は、第15回公開シンポジウムを平成30年2月18日(日)に予定しています。

今後もこのシンポジウム等を通じて、薬の専門家としての薬剤師が、ゲノム医療の進歩の中でどのように医療を進め、どのようにがん患者に向き合うか、という、がん患者への対応についても考える機会となるよう、より一層の充実を図って参ります。



満員御礼の第13回公開シンポジウム

■大薬がんプロ教育講演会を開催

第3期がんプロ事業からの新しい試みとして、学生・教員を対象とした「大薬がんプロ教育講演会2017」を以下のとおり開催しました。今後も継続して定期的に開催する予定です。

日時 平成29年12月15日(金)

場所 大阪薬科大学C205講義室

講演 メインテーマ「ゲノム医療とがん治療」

- ①「薬剤師国家試験に役立つ!?がん分子標的治療薬のすべて」
大阪薬科大学基礎薬学教育研究センター教授 尾崎 恵一
- ②「がんの予防・診断・治療に役立つ遺伝子の同定と個別化医療」
国立がん研究センターゲノム生物学研究分野長 河野 隆志 先生



※河野先生は肺がんの新しい原因遺伝子「RET 融合遺伝子」を発見され、遺伝子異常に基づくがん個別化治療の研究をされています。

■第52回大薬祭「colorful」を終えて

大薬祭実行委員長 真名子 啓太

第52回大薬祭は、テーマである「colorful」のように僕たちの色を出せたと思います。

大薬祭が開催されるまで多くの期待や不安を持ちましたが、当日お越しいただいた方や学生の笑顔を実際に見て、そこで安心することができました。

今年度の大薬祭を開催することができたのは、実行委員一人ひとりのおかげです。夏休み明けの9月中旬から大薬祭までの毎週土曜日、大薬祭期間中前後の約1週間はほとんどの時間を大薬祭の運営に費やしてくれ、当日は朝7時に集合して1日中動いてくれました。仲間の終わっていない仕事を自分を犠牲にしてまで手伝う姿を見て、今年の大薬祭は必ず成功すると確信しました。実行委員は実行委員でありながら、一学生です。各イベントを見たいという気持ちはひしひしと伝わりましたが、まずは大薬祭運営のことを優先してくれて熱心に動いてくれました。雨が降った時も迅速に動いてくれてびしょびしょになるまで仕事をしてくれました。この場を借りてお礼を言わせていただきます。本当にありがとうございます！

昨年度から、引き継ぐことができたFM802とのコラボ企画である「ROCK KIDS 802 学園祭SPECIAL LIVE祭！祭！」スピンオフ公開座談会収録や様々なイベント、模擬店でも多くの盛り上がりを見ることができました。

特に、FM802とのコラボ企画は、昨年とても好評でしたので今年もできたこと、公開収録というこれまでになかった新たな大薬祭のイベントという形になったことはすべて幹部で早い時期から準備してきたことで実現することができました。

今年度の大薬祭は、3日目は台風により途中で中止とさせていただきます。前日には、台風でもなんとか大薬祭を行うことができ

るように看板などはなるべく回収しておくことや野外ステージの横板を外しておくことなど自分たちができること全てを幹部で綿密に打ち合わせしました。それでもやはり来場者の方の安全が大切であるので、ぎりぎりまで判断を迷いましたが中止の判断を下しました。これまでみんなが準備してきたのを近くで見ているので、このような形で終わってしまっていたのかとても悩みました。特に、薔薇祭は毎年の伝統があるイベントで1ヶ月前から練習をしている部活もあります。なんとか薔薇祭だけでも開催できないか学生部長や学生課の人に相談をしましたが、安全第一ということで、実現することができず、本当に悔しい思いをしました。しかし、幹部の間で薔薇祭は別の日に開催したいとの意見になり、皆様のご協力により実際に開催することができました。

私はこの数ヶ月という期間で仕事の仕方、リーダーの在り方、新しい仲間との出会いなど、数えきれないほどの人生の糧を手に入れることができました。大薬祭を通して学べたこと、出会い全てに感謝しています。本当に実行委員長を経験することができたことは、一生の思い出となりたくさんの経験を積むことになりました。

最後になりましたが、大薬祭開催にあたり協力して頂いた地域の皆様、同窓会、育友会の皆様、業者の皆様、大阪薬科大学の教職員の皆様、手厚くアドバイスやフォローしていただいた先輩方に多大なるご支援、ご協力を賜りましたことをこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。



■第13回大阪薬科大学特待奨学生表彰

優秀な成績で特待奨学生に選ばれた皆様に心から敬意を表します。

特待奨学生の内、学部学生については、前年度の「学業成績が優秀でかつ学生生活における態度」などを慎重に審議し、最終的に教務部委員会及び学生部委員会において決定いたしました。大学院の新入生については「大学院入試成績が優秀な者」を、また、大学院の在生学生については、研究内容のプレゼンテーションを行い、大学院委員会のメンバーがそれを評価し、「有望な研究を行っている」という観点から、大学院委員会で

最終決定しました。学部、大学院で特待奨学生に選ばれた皆様は、本学学生の模範として、学生全体を牽引する存在として今後もさらに精進して下さるようお願い申し上げます。



大学院新入生及び学部特待奨学生表彰式(5月31日)



5年次生特待奨学生表彰式(7月31日)



大学院特待奨学生表彰式(11月9日)

■平成29年度 大阪薬科大学特待奨学金 表彰者一覧

学部学生	最優秀	特別優秀	特別優秀	特別優秀	優秀	優秀	優秀	優秀
2年次生	深田 真由	池田 優花	丸川 華穂		知念みなと	溝渕 慶乃	石崎 悠斗	石井 寿佳
3年次生	北川 波輝	藤田 小波	畔野 愛菜	山口 雄矢	高城 美月	山口 貴志	浅田 夏月	
4年次生	近藤 理沙	東垂水郁圭	岩本 葵	谷口 菜優	林 徳男	山川恵里佳	山本 哲也	
5年次生	勝見 菜奈	杉浦 裕磨	阪出 晴香		中井 絵梨	川部 詩織	和田 伸也	井上 梨沙

大学院学生 博士前期課程1年次生 今 海斗 / 博士後期課程2年次生 藤森 美季 / 博士後期課程3年次生 川上 智也 / 博士後期課程4年次生 國澤 直史

■人権講演会「インターネットと人権侵害」

平成29年10月5日(木)13:00から本学講堂で1年次生を対象に人権講演会が開催されました。一般社団法人関西ICT協会の理事三井俊和先生と白石光行先生に、1)SNSの各種事例について(「Twitterのいい使い方」、「ネット炎上事例」、「LINE上のトラブル」、「ストーリーに注意」、「肖像権って?」)、2)依存症について、3)デートDVについて、4)架空請求詐欺について等のお話しをしていただきました。

“スマートフォンやネットの世界にはそこに潜む危険性だけでなく、相手が存在する、その相手のことを考えつつ使用しましょう”というお話しを中心に、それぞれの事例紹介と共にインタビュー形式で学生の意見を伺い、一緒に考えながら理解を深めました。講演の最初に、「周囲の友達と相談や雑談をしながら考えてください。」との説明があり、これについて学生からは「能動的に参加できて、理解が深まった。」「相談しながらであったりしたので眠くならず聞くことができました。」等の意見が多くありました。学生の講演内容についての感想には「普段気軽にSNSをよく使うので、相手を傷つけないようにしたり、自分のプライバシーを守るように使い方を考え直したい。自分のことだけでなく相手のことも考えられる様になりたい。」「LINEで打った文章も意味の取り間違いで傷つけてしまうので、LINEを打つ時はきちんと考えて文章を送りたいと思った。」など、多く寄せられました。

また、Twitterで投稿した写真と内容から数分のうちに個人情報特定され、関係各所へ電話などの問合せがある事例などの紹介があり、学生から「SNSで犯罪を犯したり、巻き込まれないためには少しの配慮が大切と思った。」「写真やリアルタイムで場所を載せてしまうだけで、個人情報が特定しやすくなり、ストーリー被害があると知って、鍵をかける等の配慮が必要だと思った。」「軽い気持ちで他人の写真をあげてしまうことも、人権侵害になるので気をつけなければならない。」「自分の就職だけでなく自分の大学、バイト先など他人に迷惑がかかることを考えると慎重にツイートしなければならないと感じた。」など様々な感想がありました。

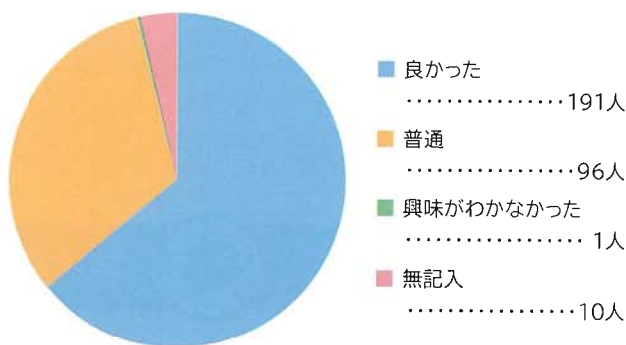
さらには、肖像権に関わる「名誉毀損罪」、「侮辱罪」や、デートDVに関わる「私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関

する法律(リベンジポルノ)」などの法律やネット詐欺などにも触れ、身近に潜む危険性を実感させられ、学生からは、「連続投稿や携帯チェックがデートDVにあたること知り驚いた。」「フィルターをかけることで、安全にスマホを使って依存症も効果があることを知り、やってみようと思う。」など多くの感想がありました。

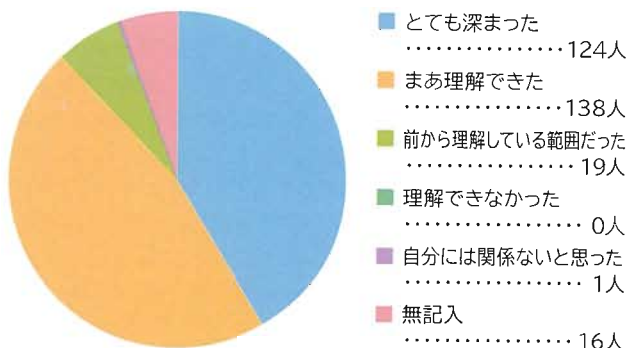


平成29年度人権講演会アンケート集計

●今日の講演を受講して



●今日の講義を聞いて、人権問題について理解が深まりましたか?



■国際交流基金助成事業について

本学では、創立百周年を記念して設けられた国際交流基金が整備されています。学術交流協定大学からの留学生受入や、外国人研究者等の招聘だけでなく、学部学生及び大学院学生の国際学会での発表、学部学生の語学留学や海外研修などの費用を対象に助成を行っております。

平成29年度前期の実績としては、国際学会の発表や短期語学留学、海外研修など、12件(学生からの申請分)の申請に対し助成を行いました。

本年度後期分の短期語学留学・海外研修等への助成については、平成29年11月13日～平成30年3月9日までの期間、申請の受付を行っています。国際交流委員会での審査を経て、採択されれば助成金が支給されます。

国際交流に関する窓口は学生課です。制度の概要や過去に助成を受けた学生の報告書をホームページに掲載していますので、申

請を考えている方はご覧ください。助成を受けるためには、事前に所定の申請様式(本学ホームページよりダウンロード可)により学生課に申請してください。

本学ホームページ

HOME > 教育・研究 > 国際交流・外国語教育支援 > 国際交流助成事業
<http://www.oups.ac.jp/gakujutsu/kokusaikoryu/index.html>

海外研修旅行・海外語学留学	対象経費総額に5割を乗じた額から10万円を限度に助成
国際学会発表	対象経費総額に8割を乗じた額から15万円を限度に助成
海外学術交流協定大学等への留学	対象経費総額に5割を乗じた額から20万円を限度に助成

「関西薬連・全国薬連大会」結果(平成29年度)

関西薬連大会

注)○内は学年

部名	団体	個人	部名	団体	個人	部名	団体	個人			
硬式庭球部	男子 一	<男子ダブルス> ベスト8:桂田 雄太②・東川 稜①	陸上競技部	男子 3位	<男子やり投げ> 優勝:奥田 剛亮①	陸上競技部	女子 一	<男子200m> 4位:福塚 亮介①			
硬式野球部	優勝				<男子三段跳び> 優勝:松本 功一①			<男子5000m> 8位:細見 健太①			
ソフトテニス部	男子 優勝	<男子ダブルス> 3位:飯田 信樹⑤・梅本 康平⑤ ベスト8:石田 健朗②・森脇 大貴②			<男子走幅跳> 2位:松本 功一①			<女子やり投げ> 優勝:岡島 遥奈①			
	女子 3位	<女子ダブルス> ベスト4:杉原 志帆②・中嶋 美里② ベスト8:井上 咲季子④・長崎 菜④、 松浦 由佳③・安村 真紀③			<男子走高跳> 2位:添井 雅人①			<女子砲丸投げ> 優勝:岡島 遥奈①			
卓球部	男子 8位				<男子砲丸投げ> 優勝:奥田 剛亮①			全国薬連大会			
	女子 8位	<女子ダブルス> 3位:石谷 有梨佳④・石谷 安規奈②			<男子円盤投げ> 2位:奥田 剛亮①						
バドミントン部	男子 8位	<男子シングルス> ベスト8:新藤 涼太①			<男子4×100mリレー> 優勝:友次 一真①・藤井 雅人①・ 福塚 亮介①・安藤 憲太①			男子 準優勝		<男子ダブルス> 準優勝:福永 悠介④・石田 健朗② 3位:岩成 和輝③・森島 健太③	
	女子 準優勝	<女子シングルス> 優勝:赤尾 美乃里③ <女子ダブルス> 優勝:赤尾 美乃里③・田中 沙弥①			<男子4×400mリレー> 3位:友次 一真①・福塚 亮介①・ 藤井 雅人①・松本 功一①			ソフトテニス部	女子 一	<女子ダブルス> ベスト8:松浦 由佳③・安村 真紀③、 杉原 志帆②・中嶋 美里②	
					<男子100m> 4位:安藤 憲太① 5位:友次 一真①			卓球部	男子 予選敗退 女子 優勝		



学生相談室だより

「つくり笑顔も悪くない—笑いの効用—」

忙しくしている時、気分が沈んでいる時、知らず知らずのうちに無表情になったり、暗い表情になったりして、友達や家族から「笑顔ないよ。笑って。」と声をかけられたことってありませんか。声をかけてくれた人は、本当に笑顔を作るように言っているのではなくて、いたわりやはげましの気持ちを伝えてくれているのだと思います。そうとわかっていながらも、「そう言われても、笑えないのよね。」なんて、余裕のない反応を密かにしてしまうのは私だけでしょうか。しかし、ここでいっその事、その言葉を真に受けて、笑ってみるとどうでしょう。

さて、私たちの心と身体は密接に関係しています。私たちは、楽しいと笑いますし、悲しいと泣きます。心が動くと身体も動きます。また、身体が変化すると心も変化します。先ほどとは逆に、笑うと楽しい気分になり、泣くと悲しい気分になるということです。

脳は身体の動きをキャッチして、感情を起こしていると言えます。口を横に開いて歯を出す、「い」と発音する時の表情、つまり笑いの表情を意図的に作ってみる実験においては、楽しい感情が起こってきたそうです。実際笑っている時には、副交感神経が優位に働いて、心身がリラックスした状態になり、心地よく感じ、楽しいという感情が起こってきます。また、笑いの表情を作ると、鼻の中に取り込まれる空気が多くなり、脳に送られる血液が冷まされて、心地よい感情を引き起こすということも分かっています。

笑いと言っても、いろんな笑いがあります。楽しい笑い、うれしい笑い。緊張から解き放たれてホッとした笑い。挨拶笑い、苦笑い、愛想笑いと言った社交上の笑い。どれも似たような身体の変化があります。ただし、意地悪な笑いは例外です。

家庭や職場、クラスには、笑いがある方が良くに決まっています。では、笑いとはどんな役割をしているのでしょうか。当然ながら、楽し

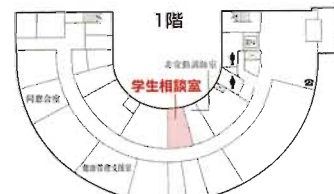
い笑いは、楽しく和やかな場の雰囲気をもたらします。社交上の笑いも侮れません。相手に対して友好的だとか、敵意を持ってないという意思表示になります。笑いがあると、厳しいことを伝えないといいけない時には、厳しさを和らげます。辛いことを受け入れないといいけない時には、少し力を抜くことができます。人とのやり取りの中では、「聞いていますよ」、「わかっていますよ」というメッセージにもなります。つまり、笑いはお互いの関係、場を良好に維持するための緩衝材やコミュニケーションツールにもなるのです。

ということで、やはり笑わないより、笑うことは良いようです。ためしに、意識してやってみませんか。(笑)

<参考文献>『人はなぜ笑うのか—笑いの精神生理学—』
志水 彰、角辻 豊、中村 真 著 講談社

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー(臨床心理士)が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。保護者からの相談も可能です。



受付時間

【毎週火曜日】
12:00-16:00 若林 暁子
【毎週木曜日】
12:00-16:00 小田 佳子
【毎週金曜日】
14:00-18:00 西田 裕子

問合せ

TEL:072-690-1077(直通)
e-mail:counsel@gly.ups.ac.jp



キャリアサポート課だより

皆さんは、キャリアサポート課を利用するのは就活準備を始める5年次生や6年次生だと思いませんか？ 実は、そうではありません。就職のことが気になったり、考え始めたりしたとき、そのときからキャリアサポート課を積極的に利用してください。

勉学やクラブ、交友関係で忙しい学生生活を過ごしている薬学生の皆さんも卒業すれば長い社会人生活を送ることになります。将来働く時間はざっと40年はあるでしょう。在学中に学生の本分を尽くすことは大切です。それに加えて、今のうちだからこそ在学期間の何倍もある自分の将来、つまりキャリアについて早い段階から思いを巡らせてもらいたいと考えています。

キャリアサポート課とその横の資料室には、求人票や企業・病院等のパンフレット、就職試験報告書、就職に関連した図書(業界の紹介、就活対策、啓発本等)、学内セミナー関連資料など色々な資料があります。窓口では、各資料の有効な利用方法についての説明や個別相談を受け付けています。個別相談では、キャリアコンサルタントの資格(国家資格)を持った3名の職員が、進路に関する悩み相談、インターンシップや就活に関

する対策、個別面接トレーニングなど、さまざまな要望に丁寧に対応します。1～3年次生の利用も大歓迎です。

キャリアサポート課では、セミナーや実践講座などのキャリア支援行事も開催しています。1～3年次生にも役に立つ企画として、薬学出身者が活躍する多様な職種の研究や働くことの意義、自己の主体的なキャリアプランを醸成するセミナーや説明会などがあります。さらに、高学年の学生には、就職活動に必要な知識や情報を得たうえで主体的に就職活動に取り組めるよう、就活スキルを身に着的けるための面接実践トレーニング、小論文対策など選考に特化した企画を実施しています。

目的意識を持って主体的に学生生活に取り組むことはとても大切なことです。広い視野から物事を見ることで、これまで気づかなかった新しい「出会い」や身の回りの「出来事」を見つけ出して、これまでにない「発想」を生み出してください。就職活動の色々な場面で、相手の方(面接官やリクルーター等)から皆さんの学生時代の過ごし方が問われます。なぜなら、そこから何を学んだか、どのように取り組んだか、なぜそれをやってみようと思ったか等、学生生活の過ごし方を問うことによって個々の学生(応募者)の人柄や考え方を知りたいからです。

動画サイトを開設

今年度から、より効果的に就職活動や準備ができるよう本学学生専用の動画サイト「大阪薬科大学キャリアサポートチャンネル」を開設しました。学外からでもアクセスできますので、皆さんの都合のよい時間に動画を視聴し、就活情報や業種・職種理解の参考として大いに活用してください。

アクセス方法

- ①ユニバーサルパスポートにアクセス
- ②「キャリアサポート」タブから「キャリアサポートチャンネル」を選択
- ③IDとパスワードを入力して、ログイン

なお、IDとパスワードは今年4月下旬にキャリアサポート課からユニバーサルパスポートでお知らせしています。不明な方は気軽にキャリアサポート課に問い合わせください。

合同説明会のお知らせ **重要**

進路先の求人や職種に関する情報提供を目的とした学内合同説明会(全学年対象)を開催します。

- ①平成30年3月3日(土)
企業…43社参加予定
- ②平成30年4月5日(木)
病院・薬局・公務員
…約100団体参加予定

5～6年次生は採用担当者から直接に採用情報を得るまたとない機会を大いに活用しましょう。また、1～4年次生はそれぞれの職種について具体的に知る機会にすると共に、先輩達の就活現場を間近に見て自分の将来像を思い描いてください。

*各種キャリアサポートガイダンスも引き続き実施していきます。詳細はキャリアサポート課の掲示板やユニバーサルパスポートによる案内をご確認ください。

■献血者の推移

年2回、大学構内において献血を実施していますが、献血者の人数が減少傾向にあります。

医学が進歩した現代においても、人間の生命を維持するために欠くことのできない血液は人工的に造ることはできません。現在の医療現場では必要とされる血液製剤の数が不足していますので、皆様のご協力をお願いします。

実施日	200cc	400cc	合計
H29. 9.19(火)	5	19	24人
(受付数)			(31)
H29. 5.12(金)	16	35	51人
(受付数)			(62)
H28. 9.15(木)	5	22	27人
(受付数)	(7)	(28)	(35)
H28. 5.13(金)	5	31	36人
(受付数)	(6)	(48)	(54)
H27.11.12(木)	7	29	36人
(受付数)	(9)	(40)	(49)
H27. 5. 8(金)	12	51	63人
(受付数)	(19)	(64)	(83)
H26.11.13(木)	7	36	43人
(受付数)	(11)	(48)	(59)
H26. 5. 8(木)	8	55	63人
(受付数)	(14)	(67)	(81)

※受付数は、受付時の検査で血液の比重不足等により献血できなかった人を含んだ人数です。

■平成29年度学位授与

[博士] 論文博士
 博士(薬科学)論博薬科第75号 宮崎 雄太
 超臨界流体及び水中溶媒拡散法を用いた吸入粉末製剤用微粒子設計に関する研究 (平成29年7月27日付)

課程博士
 博士(薬学)博薬第32号 内藤 雅人
 癌化学療法の副作用発現に関する効果量を用いた予測モデルの構築と評価 (平成29年6月28日付)

[学士] 学士(薬学)
 薬学科 男子3名 女子2名 計5名
 (平成29年9月29日)

学士(薬科学)
 女子1名 計1名 (平成29年9月29日)

■平成29年度公開授業の日程

本学では、FD委員会を組織し、授業の改善に取り組んでいます。その一環として、教員間で授業参観をすることにより、その授業に対しての意見交換を行い、授業内容を改善することを目的とした公開授業を実施しています。

FD(Faculty Development:教員が授業内容、方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称)

- [前期]**
- ・3年次生「応用分析学」(佐藤准教授)
平成29年6月19日(月)・26日(月)
 - ・2年次「分析化学実習」
(天満教授、箕浦准教授、佐藤准教授、東助教)
平成29年6月20日(火)
- [後期]**
- ・1年次「基礎有機化学実習」
(田中教授、宇佐美准教授、山田准教授、菊地助教)
平成29年10月25日(水)
 - ・4年次「薬物治療学4」
(井尻准教授、加藤講師:
当日は加藤講師が講義を担当)
平成29年11月17日(金)

■大阪薬科大学シーズ集2017

本学では、教育・研究を通じて得られた研究成果を広く社会に還元し、「社会貢献」や「産学官連携」を推進することを目的として昨年に引き続き「大阪薬科大学シーズ集2017」を発刊しました。今年は、本学の共同研究センターに設置されている主な機器を掲載し、内容を充実させました。

シーズ集は本学教員の「研究分野」や「研究概要」、「産学連携の可能性」などについて、わかりやすく掲載している研究紹介の冊子です。このシーズ集は、製薬会社をはじめ、多くの企業にも送付して、本学の研究を学外へ広く発信しています。この研究シーズ集が、産学官連携活動をはじめ、新たな研究開発の一助となることを期待しています。

■平成29年度実験動物慰霊祭

平成29年12月13日(水)12時20分よりD棟講堂において、実験動物慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭は、教職員及び学生等、参列者全員が黙祷を行った後、永井動物関連研究施設運営委員長から挨拶と慰霊のことばが述べられました。

次いで、大喜多動物関連研究施設管理責任者から、実験動物飼育状況等について報告がありました。

最後に、私たちの教育・研究のために尊い命を捧げてくれた実験動物の冥福を祈り、参列者全員が献花しました。

■平成29年度大阪薬科大学生涯学習事業を終えて

生涯学習センター長 永井 純也

医療の担い手である薬剤師が患者にとって最適な業務を遂行するためには、常に最新の知識や技能を継続的に修得していくことが不可欠になってきています。こうした状況を考えると、大学を卒業し、薬剤師の資格を取得した後も自己研鑽を行える機会を提供することは、本学の重要な使命の一つでもあります。本学では、これまでも長年にわたって薬剤師の生涯学習事業を実施してきましたが、その実施体制の整備および拡充を図るため、本年6月に生涯学習センターが設置されました。今後は、この生涯学習センターが起点となり、本学同窓会とも密接に連携しながら、卒業後においても薬学を始めとする医療全般に関する知識やスキルを学び続けることが出来る環境の充実を図っていく予定です。

現在の本学における主たる生涯学習事業は、1)集団研修形式の講演会である「公開教育講座」、2)各回20名程度の薬剤師を限定とし、演習を主体とした参加型の「サテライトセミナー」、3)今後の在宅医療やチーム医療を円滑に進めていくために必要な知識と技能の習得を目的とした「薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー」です。

平成29年度の生涯学習事業を総括しますと、まず、公開教育講座については「心不全/心臓移植」、「地域医療における医師および薬剤師の役割や多職種連携」、「地域医療に活かす薬剤師職能の

展開」を各回のテーマとして取り上げ、以下の日程で年3回開催しました。いずれの開催においても多数の現役薬剤師にご参加頂きました。また、「サテライトセミナー」は昨年度の2回から今年度は5回に回数を増やし、「医薬品情報」、「薬物動態」、「医薬品リスク管理計画(RMP)」、「がん薬物療法」をキーワードとしたテーマを各回に設定しました。少人数で活発な議論を行うことにより、参加者間での知識や問題点の共有が図れたように思います。また、「薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー」は開催曜日を日曜日として計4回開催いたしました。参加者のほとんどは継続的なフィジカルアセスメントに関する講習の受講を希望されており、今後は受講回数2回目以降の方を対象としたアドバンスセミナーの開催も計画しているところです。

上記の生涯学習事業を滞りなく実施することができましたのも、ひとえに多くの皆様方のご支援の賜であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。最後に、本生涯学習事業の開催にあたり、ご共催あるいはご後援いただきました公益財団法人 日本薬剤師研修センター、公益社団法人 日本薬学会近畿支部、一般社団法人 大阪府薬剤師会、一般社団法人 大阪府病院薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に厚く御礼申し上げます。

公開教育講座(講演会)

開催場所:梅田スカイビルタワーウエスト36階 会議室L・R(各回共通)

- ◆第75回:平成29年5月27日(土)
 - ①「心不全から心臓移植に至るまでの薬剤師の介入ポイント」
国立循環器病研究センター病院 薬剤部 特任副薬剤部長 和田 恭一 先生
 - ②「我が国における重症心不全治療、特に心臓移植と補助人工心臓の現状と今後の展望」
国立循環器病研究センター病院 移植部門 移植医療部長 福高 教博 先生
- ◆第76回:平成29年7月22日(土)
 - ①「多職種協働による在宅支援～地域の中で薬剤師ができること・すべきこと～」
アイビー薬局 取締役・副社長 長崎大学薬学部 客員研究員・非常勤講師 手嶋 無限 先生
 - ②「プライマリ・ケアの現場で本当に必要な薬について～総合診療医からのメッセージ～」
学校法人大阪医科薬科大学 地域総合医療科学寄附講座 特任教授
大阪医科大学附属病院 総合診療科 科長 鈴木 富雄 先生
- ◆第77回:平成29年11月18日(土)
 - ①「地域包括ケアにおける薬局・薬剤師の役割～平成30年度調剤報酬改定も踏まえて～」
ファルメディコ株式会社 代表取締役社長、一般社団法人 日本在宅薬学会 理事長、
医療法人嘉健会 恩温病院 院長 狭間 研至 先生
 - ②「高齢者の安全な薬物治療と連携の重要性」
神戸大学 名誉教授 前 神戸大学医学部附属病院 薬剤部長 平井 みどり 先生



サテライトセミナー

開催場所:大阪薬科大学サテライト研修室(三島センター薬局 3階)(各回共通)

- ◆第1回目:平成29年6月18日(日)
 - ①「医薬品情報活用術1 ～SGLT2阻害剤の特徴を薬学的視点から整理する～」
大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 准教授 角山 香織 先生 他
- ◆第2回目:平成29年8月6日(日)
 - ①「医薬品情報活用術2 ～抗血小板薬を例に、インタビューフォームを活用した投与設計について考える～」
大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 敬明 先生 他
- ◆第3回目:平成29年10月22日(日)
 - ①「紙と鉛筆でできる!? 薬物体内動態の変動を予想する」
大阪薬科大学 薬剤学研究室 准教授 宮崎 誠 先生 他
- ◆第4回目:平成29年11月26日(日)
 - ①「RMPを日常業務に活かそう ～抗凝固薬を例に～」
大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 任 先生 他
- ◆第5回目:平成30年1月28日(日)
 - ①「がん薬物療法における皮膚障害について考える」
大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まやこ 先生 他



薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー

開催場所:大阪薬科大学 セミナー室D-3A

- ◆第1回目:平成29年4月23日(日)
- ◆第2回目:平成29年5月21日(日)
- ◆第3回目:平成29年6月25日(日)
- ◆第4回目:平成29年9月17日(日)
- ①「薬剤師に必要なフィジカルアセスメントの基礎知識と実践」
大阪薬科大学 循環器病態治療学研究室 教授 林 哲也 先生



オープンキャンパス2017報告

※春のオープンキャンパスは2018年
3月21日(水・祝)を予定しています。

夏のオープンキャンパス2017(7/29.30.8/20)は、お天気に恵まれ3日間で1,801名の受験生、保護者にご参加いただきました。さらに秋のオープンキャンパス(10/1)も290名の参加があり、春(3/26)240名を含めると年5回の開催で2,331名の参加者数となりました。

「キャンパスツアー」や「在学生による個別相談コーナー」では在学生在が活躍しました。参加者にとっては教職員には聞きにくい「生の声」を気軽に聞くことができ、大変好評でした。そのほかに「入試対策講座」、「模擬実験」、「卒業生の話」、「薬用植

物園見学」、「模擬授業」などのプログラムを実施し、パンフレットでは伝わらない大阪薬科大学の魅力に触れていただきました。アンケート結果では「キャンパスや実習施設がきれい!」、「とても貴重な体験ができた」などのコメントをいただき、今後のオープンキャンパスに活かしています。

近年は土曜日に授業をしている高校が多いため、今年の秋のオープンキャンパスは日曜日に実施しました。これからも、オープンキャンパスを通じて本学のPRをしていきたいと考えています。

キャンパスツアー

オープンキャンパスの中で一番人気のイベントです。来場者のほとんどが参加します。



入試説明会

学長からの挨拶の後、入試・進路・就職状況について、説明しました。



体験イベント(模擬実験)

薬学部の学びが体験できる体験イベント(模擬実験)や、藤森教授による模擬授業「腸内細菌と健康」を開催しました。



アンケート回収・LINE

参加者からのアンケートを回収し、貴重な意見を今後のオープンキャンパス運営に活かしています。大阪薬科大学のLINE公式アカウントでは入試に関するイベントやオープンキャンパスの情報などをお知らせしています。



在学生による個別相談

教職員には、ちょっと聞きにくい学生生活などの質問も、在在学生には気軽に聞けると受験生と父母から好評でした。



薬用植物園見学会

谷口教授、芝野准教授のご協力を得て開催し、約30組の参加がありました。




 クラブ紹介

■大阪薬科大学コーラス部



大阪薬科大学コーラス部は、60年以上の歴史をもつ伝統ある部活です。

普段は週に3回、主に大学会館2階のホールにて活動しています。歌う前に体をほぐすための体操からはじまり、プレストレーニングや基礎の発声を行います。その後、ソプラノ、アルト、テナー、ベースの4パートでパート別に練習し、全パートで合わせて歌います。今年度は新たに明るく積極的な1年次生を7人迎え、合わせて43人となりました。より賑やかな部活となり、学年を越えて仲良く活動しています。

練習の成果を、五月祭でのアカペラ発表や、6月の大阪府合唱連盟主催の大阪府合唱祭、大薬祭でのアカペラ発表や文化発表で、多くの皆さまに聴いていただいています。また年に数回、大阪医科大学をはじめ、大阪大学や大阪府立大学、関西大学など他大学のコーラス部とも交流の場を設けており、幅広く活動させていただいております。

そして、去る11月23日(木・祝)に、たかいし市民文化会館アプラホール大ホールにて、第47回定期演奏会を行いました。第1ステージはディズニー曲集を演奏し、「小さな世界」やリトルマーメイドより「パート・オブ・ユア・ワールド」など、ディズニー映画の有名な曲を楽しんで歌うことができました。第2ステージでは、混声合唱曲集「かなしみはあたらしい」を演奏しました。音の動きやリズムの取り方が難しく、本番直前まで苦戦しましたが、本番では上手く演奏することができ、今まで諦めずに練習してきたことに達成感を感じました。第3ステージでは、オズの魔法使いを元にした劇を行いました。新入生を中心に劇を行い、ダンスやコーラスを交えながら、お客さんにも楽しんでいただけるステージとなりました。第4ステージでは混声合唱組曲「心が愛にふるえるとき」を、音楽アドバイザーとして、いつもご指導をいただいている当間修一先生の指揮で演奏しました。ふるさとや家族を想う曲で、終演後お客さんに「感動した!」「心が愛にふるえた!」という言葉をいただき、感情を込めて演奏することができたことに喜びを感じ

ました。

私たちの部活は合唱初心者の学生が多く、音を取ることでさえ苦労することもありました。加えて、「合唱」という事もあり、一つの曲を大人数で取り組むというのは難しく、一年間練習してきた中で苦労した事も多々ありました。しかし、合唱をしていく中で、お互いを支え合い、時にはばつかりながら頑張ってきたおかげで、部員みんなの心を通わせ合うことができました。みんなの合唱に対する熱く真摯な思いが、そのまま定期演奏会の舞台上で表現できたと思っています。そして、みんなで作る音楽には言葉では言い表せない感動がありました。こういった経験ができるのは大阪薬科大学コーラス部ならではの強さを感じます。

今年度の定期演奏会を終えた現在は、まだ見ぬ新入生の加入を楽しみに来年度を見据えて新しい合唱曲の練習を行っています。今後も、聴いていただいた皆さまの心に届くような音楽が創り出せるよう、部員一同練習に励んでいきたいと思っています。



■大阪薬科大学コーラス部 練習情報

練習時間

毎週月・水・金曜日

16:30~19:00

練習場所

大学会館2Fホール

大薬にまつわるエトセトラ



その1

大薬に卓球世界チャンピオンがいた!

福原愛、石川佳純、平野美宇、伊藤美誠、張本智和、さて、この人たちは誰?と問われて、すぐに「卓球の選手!」と答えられる方が多いことと思います。本当にこの選手たちの活躍は目覚ましく、まさに今、「卓球日本」で盛り上がっていますよね。これを機に卓球を始めてみようかな?と思われた方もいらっしゃるのではないでしょうか。

そんな卓球ブームの昨今ですが、我が大阪薬科大学に卓球の世界チャンピオンが在籍していたことはご存知でしょうか?

江口富士枝さんは、昭和7年に長崎市で誕生した後、6歳の時に一家は大阪に移りました。スポーツ好きの姉が足繁く道頓堀の卓球場へ通っていた影響で江口さんも卓球に興味を持ち始め、中学校で卓球部に入部します。ここで出会ったコーチに基礎をたたき込まれ、卓球を始めてわずか数ヶ月で全国大会の大阪代表に選ばれるまでになったのです。その後、高校でも卓球部に入りましたが、実力を発揮できないまま終ります。高校卒業後は一旦卓球から離れ、家業の手伝いに勤しむこととなりますが、気が付けば職場の卓球部の一員になっており、卓球への熱い想いが再び燃え出します。その想いを厳格な父に伝えたところ、卓球をしたいならば、医者になるために大学へ行くことを条件に出され、猛勉強の末、大阪薬科大学の医科コースに見事入学を果たしました。※当時は、試験を経て医科大学へ編入できるコースがあった。

大阪薬科大学に入学した江口さんは、もちろん卓球部に入部します。当時の卓球部は特に強いチームではなかったようです。「これで思う存分練習ができる」と期待していた江口さんでしたが、今の本学学生と同様、毎日朝から夕方までびっしりと講義や実習が詰まっていました。授業への出席は厳しくチェックされ、実習は夜になっても終わらないこともしばしばでした。練習に早く行きたい

今回は、元世界選手権チャンピオン 江口富士枝さんにスポットを当て、大薬生にも「こんなすごい人がウチの大学にいたんだ!」と知ってもらいたいと思います。

1957年世界選手権ストックホルム大会での江口さんと決勝戦の相手のヘイドン選手



写真提供:卓球王国

けれど、実習の手を抜くことはできないといったジレンマの毎日が続き、練習時間も満足に行くものではありませんでしたが、江口さんはその短い練習時間に100%の力を注ぎました。大学での練習が足りない時は、帰りに上六の卓球練習場に通いました。また、通学にはランニングを取り入れました。そんな江口さんの姿にチームメートも影響を受け、昭和27(1952)年、大阪薬科大学はインカレの団体戦で優勝してしまうのです。江口さんはその年、全日本学生選手権女子シングルスでも優勝し、一気に全国レベルの選手へと成長していきました。その後も昭和27(1952)年 インカレ団体優勝、全日本学生選手権女子シングルス優勝、昭和28(1953)年全日本選手権準優勝と好成績を納め、ついには世界選手権日本代表選手に選ばれるまでになり、昭和29(1954)年のイギリス・ウェンブリーで開催された世界選手権に出場することとなります。日の丸を背負ったプレッシャーと戦いながらもこの大会では女子シングルスで銅メダル、ダブルスで銅メダル、男女混合で銅メダル、そして女子団体で金メダルと4つのメダルを獲得し、同年の全日本選手権でも前年準優勝の雪辱を果たし、優勝を成し遂げました。

全日本選手権で優勝した江口さんは、昭和30(1955)年の世界選手権ユトレヒト大会の日本代表メンバーにも選ばれました。しかし一方、大学生活においては出席日数が不足、出席日数が不足すると試験を受けることができないという窮地に追い込まれていました。日本代表選手であったとしても特別扱いはできないという当時の学長の方針から、苦悩の末、江口さんは卓球と大学の両立を断念し、世界選手権の前に退学することとなったのです。大学を去った江口さんですが、卓球への熱い想いは失わず、快進撃は続きます。

そして、世界選手権ユトレヒト大会では、女子ダブルス銅メダルと女子団体銀メダルと獲得します。翌昭和31(1956)年の世界選手権東京大会では、女子シングルス銅メダル、女子ダブルス銀メダル、女子団体銅メダルを獲得し、同年の全日本選手権で優勝、昭和32(1957)年の世界選手権ストックホルム大会ではついに女子シングルスで金メダルを獲得しました。同大会ではそれだけではな

世界選手権での江口富士枝さんの輝かしい成績

昭和29(1954)年 ウェンブリー大会

女子シングルス	銅メダル
女子ダブルス	銅メダル
混合ダブルス	銅メダル
女子団体	金メダル

昭和30(1955)年 ユトレヒト大会

女子ダブルス	銅メダル
女子団体	銀メダル

昭和31(1956)年 東京大会

女子シングルス	銅メダル
女子ダブルス	銀メダル
女子団体	銅メダル

昭和32(1957)年 ストックホルム大会

女子シングルス	金メダル
混合ダブルス	金メダル
女子団体	金メダル

昭和34(1959)年 ドルトムント大会

女子シングルス	銀メダル
女子ダブルス	銀メダル
混合ダブルス	金メダル
女子団体	金メダル

江口さんが語る思い出エピソード

- ①当時、近鉄・高見ノ里駅から大学までの道は、田んぼばかりで何もなくて、雨が降った翌日は、田んぼからザリガニやヒルが道に上がって来ていて、避けながら歩くのに苦労しました。
- ②卓球の練習に打ち込んでいる毎日でしたが、寄宿舎に住んでいたドイツ語の長島先生が大学で飼っていたヤギの乳を搾って飲ませてくれました。また、合宿では大学の向かいにあった橋本さん(はし善)のお家に泊めてもらいました。
- ③毎日、矢田の方までランニングをしていましたが、中には疲れて途中でランニングを止めてパチンコをしている男子学生もいました(笑)
- ④手が大きく、トレーニングによって腕力もあったので、家業の美容室の手伝いをしていた時、シャンプーの指名が多かったです。
- ⑤実習がなかなか終わらず、終わるやいなや講堂に駆け込んで練習をしました。

く、女子ダブルス金メダル、女子団体メダルと3つの金メダルを獲得するという快挙を達成したのです。

その後も昭和33(1958)年の全日本選手権での女子シングルス準優勝、女子ダブルス準優勝、昭和34(1959)年の世界選手権ドルトムント大会での女子シングルス銀メダル、女子ダブルス銀メダル、ミックスダブルス金メダル、女子団体金メダル等、輝かしい業績を重ねて行きました。

江口さんが世界選手権で金メダルを獲得したのは、大阪薬科大学を去ってからのことですが、江口さんは大阪薬科大学に輝かしい足跡を残してくださいました。学業と卓球の両立に苦しみながらも人並み外れた努力と飽くなき卓球への情熱、そんな江口さんに是非お会いしてお話を伺いたいとオファーを出したところ、快諾してくださいました。

江口さんは残念ながら途中で退学されていますが、同窓会には参加されていらっしゃるということで、平成29年11月6日にリーガロイヤルホテルで開催された「三一会」にお邪魔して来ました。20名程度の参加者かな?と思って伺ったところ、その倍くらいのOB・OGの方が集われており、ビックリしました。江口さんが同窓会にずっと参加されていらっしゃることも素敵なことだと思いましたが、あらためて「三一会」繋がりの強さに感銘を受けました。

お話を伺うなかで、学業と卓球の両立がかなり厳しかったことを一番強調されました。江口さんに大学を退学された理由について伺うと、卓球に打ち込む＝出席日数不足＝試験が受けられない＝進級できない＝医科大学への編入試験が受けられない＝医者になれない ということだったようです。医科大学へ行けなくても大阪薬科大学に留まって薬剤師になる道があったのでは?と伺うと、やはりそこはお父様との「医者になる」という約束で進学したのでから考えなかったとのことでした。

現在も後進の指導に当たっていらっしゃるという江口さん。残念ながら「写真は嫌い」ということで撮影はNGでしたが、同窓会当日の記念撮影の写真掲載の許可を頂戴いたしました。当日、ご協力いただいた「三一会」の同窓生の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。



平成29年11月6日の「三一会」にて(後列左から4人目が江口さん)



世界選手権に5回も出場した記念に作ってもらったという貴重なユニフォームを託してくださいました。



大学に保管されていた1952(昭和27)年の全日本大学生選手権女子シングルス慰傷記念カップ



当時の卓球部は講堂で練習をしていた(1955当時の卓球部)



就任の挨拶

高校教諭としての経験を生かして

自然学グループ 准教授 竹本 宏輝

平成29年10月1日付で総合科学系自然学グループに着任いたしました。私は、京都大学大学院理学研究科博士課程を終了後、日本原子力研究所に3年間、信州大学繊維学部で2年間、博士研究員として研究に従事しました。専門は原子核の理論研究です。当時は、研究者としての職を得ることができず、京都府の教員採用試験に合格し、9年と半年、京都府立洛北高等学校に勤務いたしました。洛北高校はノーベル物理学賞を受賞された湯川秀樹、朝永振一郎、両博士が卒業された京一中を前身としており、在職中も物理学徒への憧れを抱いておりました。



今回、本学への就任が決まり、再び研究に従事できることをうれしく思うとともに、本学の教育に貢献できるよう尽力していく所存です。特に、高校教諭としての経験を生かして、入学した学生の皆さんがスムーズに大学への学びへ移行できるように、また、薬学を学ぶ上で必要となる物理的な知識や考え方を指導していきたいと考えています。

年度途中からの着任となりましたが、先生方や職員の皆様のご親切により、はや本学の雰囲気慣れてきました。これからも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

薬学の魅力を感じてもらえるように

生体分析学研究室 助教 近藤 直哉

平成29年8月1日付で生体分析学研究室の助教に着任しました近藤直哉と申します。

私は京都大学薬学部・同大学院で4年→2年→3年と計9年間学生生活を送り、博士課程修了後、国立循環器病研究センター研究所において分子イメージング研究に従事してきました。私自身、基礎研究から臨床まで幅広い領域をカバーできる薬学に魅力や可能性を感じています。学生の皆さんにも薬学の魅力を感じてもらえるよう、本学の教育・研究に貢献していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



歩んできた経験を皆様に発信できるように

病態分子薬理学研究室 助手 中川 恵輔

この度、平成29年7月1日付で病態分子薬理学研究室の助手として着任いたしました中川恵輔と申します。私は大阪薬科大学薬学部を卒業後、食品メーカーに勤務しておりました。

本学在学時は薬剤師免許取得を目指すとともに、食品中に含まれるフラボノイドの高血圧及び血管機能への影響に関する研究を行っていました。また食品メーカーの研究所においては、食品中の機能性成分の抽出から製剤化に至るまでの一連の業務に携わっておりました。

学生時代及び社会人となってからの経験を本学の学生の皆様に発信できるよう精進致します。どうぞよろしくお願いいたします。



■地域連携

高槻市立阿武山小学校3年生の社会見学について

地域連携教育の一環として、本学キャンパス内において、毎年高槻市立阿武山小学校の社会見学を実施しています。本年は6月14日(水)、高槻市立阿武山小学校3年生児童24名が本学を訪れ、生薬標本室と薬用植物園を見学しました。生薬標本室では、身近なお菓子やシャンプー等にも生薬成分が含まれていることを学び、また、普段目にする事のない生薬の標本の説明を受け、興味深く聞き入っていました。薬用植物園では、薬の元となる植物を実際に手にとって見たり、匂いを嗅いだりし、楽しく見学している様子が見られました。両施設の見学後は、本学の芝野 真喜雄准教授及び平田 佳之助教が児童との質疑応答に対応し、素朴な思惟ぬ質問に翻弄されながらも、楽しい時間を過ごしました。



中学生の職場体験について

毎年、本学では地域連携教育の一環として、高槻市内の中学生を受け入れ、職場体験学習を行っています。今年も以下のように受け入れました。

平成29年10月26日(木)27日(金) 高槻市立阿武山中学校 2名
平成29年11月29日(水)30日(木) 高槻市立第6中学校 3名

図書館職員と一緒に書架整理、貸出返却作業、除籍作業、カウンター業務を体験し、その他にも自身で選んだ本を紹介するコーナーを自分たちでPOPを作成してディスプレイするなど、様々な業務を体験を通して仕事の楽しさや達成感が得られたようでした。



自分たちで選んだ本の紹介コーナーのディスプレイをする中学生

■「第6回大阪薬科大学学術講演会in 東京」のご案内

日時	平成30年2月18日(日) 14:00~17:00、懇親会17:00~
場所	第一ホテル東京 4F会議室(東京都港区新橋1-2-6/TEL03-3501-4411)
演題	(1)生体分子イメージングに基づく医工薬連携研究の推進 大阪薬科大学薬学部 教授 天満 敬 (2)いよいよ始まる改訂コアカリに基づく実務実習の進め方 ~慶応義塾大学のトライアルを踏まえて~ 慶応義塾大学薬学部 教授・慶応義塾大学病院薬剤部長 望月 真弓
学術講演会参加費	無料(日本薬剤師研修センター受講シール1点配布予定)
懇親会参加費	10,000円
定員	100名(先着順)
問い合わせ先	大阪薬科大学同窓会事務局(月~金13:00~17:00) TEL&FAX 072-690-1099 E-mail:dosokai@gly.oups.ac.jp
主催	大阪薬科大学・大阪薬科大学同窓会

■メディアへの掲載・放送等(平成29年4月~平成29年12月)

掲載・放送日	掲載・放送内容	掲載・放送媒体	取材対応者・出演者・掲載者
平成29年5月10日	赤ちゃんポストの設置の意義と課題について	中国新聞社「中国新聞」	阪本 恭子 准教授
平成29年7月10日	第38回日本循環制御医学会総会・学術集会における基調講演「医療機関に由来する排水中に存在する医薬品成分と高度処理技術の開発」について	薬事日報社「薬事日報」	東 剛志 助教
平成29年12月6日	柑橘じゅばら果皮に注目した研究開発	読売テレビ「かんさい情報ネットten」	生薬科学研究室 研究生 吾妻 正章

※大阪薬科大学広報規程第6条により、報道機関による取材に応じた場合は、総務課へご連絡ください。

■本学の社会貢献活動 一市民講座委員会からの実施報告一

実施報告

第44回市民講座を、以下の通り開催しました。

開催日	平成29年9月16日(土)13:00~16:10
テーマ	認知症とくすり:創る側と使う側から
演題講師	(1)脳はまだ大丈夫!一認知症の上手なケアと予防— 国際医療福祉大学医学部 神経内科 主任教授 村井 弘之 (2)アルツハイマー病治療薬開発の夢を追って 同志社大学 脳科学研究科・神経疾患研究センター 教授 杉本 八郎
会場	大阪薬科大学 C104講義室、C105講義室



開催案内

けやきの森市民大学 大阪薬科大学公開講座を、以下の通り開催します。

開催日	平成30年2月24日(土)、3月3日(土)、3月10日(土) 14:00~15:30
講座名	くすりの作り方、効き方、使い方
講師	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 任
会場	高槻市役所生涯学習センター3階研修室 (高槻市桃園町2-1)
受講料	2,000円(全3回分)
その他	事前申込要 申込先:高槻市立生涯学習センター 申込期間:平成30年1月1日~1月10日消印有効 ※申込方法等、詳細は高槻市立生涯学習センターへお問い合わせください。

第45回市民講座を、以下の通り開催します。

開催日	平成30年5月19日(土)13:00~16:10
テーマ	脳卒中を学ぼう~予防と治療~
演題講師	(1)演題未定 社会医療法人ベガサス馬場記念病院 脳神経外科 医長 前田一史 (2)脳卒中予防における「食事の工夫」 龍谷大学 農学部 准教授 岩川 裕美
会場	大阪薬科大学 C105講義室

■防災訓練の実施について

平成29年9月20日(水)に、防災訓練を実施しました。12時08分にB棟5階生薬科学研究室第一研究室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、約1,000名の参加者(教職員、学生計)による消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練を実施しました。避難集合場所において、防火・防災管理者、自衛消防隊

長より注意喚起を含めた総評を行った後、消火器使用の実演を行いました。



■平成29年度ひらめき☆ときめきサイエンスを開催しました

本学では、独立行政法人日本学術振興会からの支援を受け、平成29年7月29日(土)に研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」プログラムを小学5・6年生と中学生を対象に開催しました。

このプログラムは、最先端の研究成果を子どもたちに発信し、大学ではどのような研究をしているのか、研究者はどういうことを考えているかなど、科学の楽しさ・不思議に触れてもらい、豊かな心と知的創造性を育む内容となっています。

病態生化学研究室内の藤森 功教授が「DNAって何?自分のDNAを取って、DNAについて知ろう!」をテーマに講義や実習を通じて最先端の研究に触れ、生命医科学への興味・関心を深めてもらいました。

最後には、全員に「未来博士号」が授与され、すべてのプログラム

を無事に終了することができました。



■LED工事を行いました

今年度、省エネ化とアメニティ向上に向けて、B棟4階～6階の全ての蛍光灯をLEDへ改修する工事を行いました。来年度は、B棟地下1階～3階の同工事を行う予定です。



(写真:参考)

■人事

採用

(平成29年7月1日付)助手(嘱託職員)	中川 恵輔
(平成29年8月1日付)助教	近藤 直哉
(平成29年10月1日付)准教授	竹本 宏輝

委嘱を解く

(平成29年8月27日付)自衛消防隊統括管理者	辻坊 裕(教授)
(平成29年8月28日付)自衛消防隊統括管理者	藤本 陽子(教授)

委嘱

(平成29年12月9日付)安全衛生委員会委員	宇佐美 吉英(准教授)
安全衛生委員会委員	芝野 真喜雄(准教授)

招へい教授

(平成29年9月1日)	赤池 昭紀
(平成29年11月1日付)	芹川 忠夫

客員研究員

(平成29年7月1日付)	森 龍彦
(平成29年9月1日付)	赤池 昭紀
(平成29年11月1日付)	芹川 忠夫
	森本 茂文
(平成29年12月1日付)	裏出 良博

■慶弔

訃報

(平成29年11月18日逝去) 掛見 正郎(名誉教授)

死亡叙位・叙勲

従五位 瑞宝小綬章
(平成29年12月15日付) 掛見 正郎

追悼 掛見 正郎 先生

本学名誉教授 掛見正郎先生におかれましては、平成29年11月18日にご逝去されました。平成3年に本学薬剤学研究室教授として就任されてから平成26年3月に退職されるまでの23年間、本学の発展のためにご尽力くださいました。

ここに掛見先生のご生前のご功績を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。





フロムLibrary

■リニューアルオープンしました

8月上旬の2日間、臨時休館してリニューアルした図書館へはもう足を運んでいただけましたでしょうか？

電子化が進み、不要となった文献抄録誌を廃棄し、スペースを大きく占領していたその書架も撤去しました。高槻の地に移転して来たら、ずっとそこにあった書架を撤去した時、現れたカーペットの鮮やかな色を見て、21年という歳月をひしひしと感じました。今ではすっかりくすんでしまった閲覧室のカーペットは、もともとは鮮やかなブルーだったのです。



文献抄録誌の廃棄、書架の撤去によって誕生したスペースには、新しく机と椅子を入れ、閲覧席数を増設することになっていましたが、この機会に第一閲覧室のレイアウトもリニューアルしてしまおう!ということになり、カウンター横の新着図書コーナー等の書棚をホワイト基調ものにして、人の動線に配慮した配置に変更しました。

学生の中には、集中して自習に専念したいと静寂を求める者も多くなります。そんな学生の想いを尊重し、新しい机と椅子はカウンターや事務室、コピー機から離れた一番奥の空間に配置し、サイレントスペースとしました。新しく入れた椅子の座面・背もたれの色は、図書委員会でセレクトしました。色が人の心を動かすという色彩心理も考慮し、副交感神経に影響して集中力を高め、リラックス効果もあってカーペットの色ともマッチした「淡いブルー」に決定しました。

また、12月に情報検索コーナーを拡充し、現在10台のPCを撤去して新しく20台のPCを設置しました。このリニューアルにより、学生の皆さんの自習効率アップに繋がるよう期待しています。

■図書館ツイッター開設しました

11月1日に大阪薬科大学図書館ツイッターを開設しました。図書館での取組や活動をはじめ、様々な情報を画像や動画で交えて配信していく予定です。大阪薬科大学図書館Twitter (アカウント名:@OUPS_LIB)



こちら広報室

今回の学報には、いくつかの新企画を盛り込みました。いかに学生の皆さんに手に取ってもらい、読んでもらえるか、試行錯誤を繰り返しながらよりよいものにして行きたいと思っています。

また、広報室では、学報の作成だけでなく、グッズの作成も担当しています。

「学報でこんな企画を取り上げてほしい」、「大学でこんなイベントを企画してほしい」、「こんなグッズを作ってほしい」

そんな学生の皆さんの意見を大募集しています。

また、「学報のモデルになってもいいよ」という方も募集します。

学生の皆さんのご意見、ご応募お待ちしておりますので、メールにてお知らせください。

宛先はkouhou@gly.oups.ac.jpです。

メールの際には、学籍番号と氏名を明記してください。

こんなところに大薬大

大阪薬科大学では、看板を以下の場所に掲出しています(平成29年12月現在)。

近くにお出かけの際には、是非立ち寄ってみてください。

※期間限定(1/1~2/4)でJR天王寺駅、JR三ノ宮駅にも掲出予定です。



JR大阪駅7,8番ホームエレベーター



地下鉄御堂筋線なんば駅北コンコース



JR京都駅新幹線南口駅前広場



JR高槻駅大阪行きホーム階段

平成29年度 後期行事予定

平成30年		
1月	9(火)・10(水)	薬学総合演習正規試験1(6年次生)
	9(火)~16(火)	後期定期試験(薬学科4年次生)
	10(水)~17(水)	後期定期試験(薬科学科4年次生)
	10(水)~19(金)	後期定期試験(1~3年次生)
	17(水)	後期定期試験(薬学科4年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
		後期定期試験予備日(薬学科4年次生)
	18(木)	後期定期試験(薬科学科4年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
		後期定期試験予備日(薬科学科4年次生)
	20(土)・22(月)	後期定期試験予備日(1~3年次生)
	22(月)	後期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
	22(月)・23(火)	薬学総合演習正規試験2(6年次生)
	22(月)~25(木)	後期下位年次科目再試験(薬学科、薬科学科4年次生)
	25(木)	後期再試験 受験者発表(薬学科、薬科学科4年次生)
	26(金)	後期下位年次科目再試験予備日(薬学科、薬科学科4年次生)
29(月)~2.2(金)	後期再試験(薬学科4年次生) 2月1日(木)を除く	
2月	3(土)	後期再試験予備日(薬学科、薬科学科4年次生)
	5(月)	後期再試験 受験者発表(1~3年次生)
	7(水)	薬学科卒業生発表(教務課)
	13(火)~21(水)	後期再試験(1~3年次生) 2月18日(日)を除く
	14(水)	特別再試験 受験者発表(薬学科、薬科学科4年次生)
	16(金)~21(水)	特別再試験(薬学科、薬科学科4年次生)
		特別再試験予備日(薬学科、薬科学科4年次生)
	22(木)	CBT追再試験(薬学科4年次生)
		後期再試験予備日(1~3年次生)
	22(木)・23(金)	博士・修士論文発表会
	23(金)	平成30年度大学院博士後期課程(薬科学専攻)入学試験
24(土)・25(日)	第103回薬剤師国家試験(厚生労働省)	
3月	1(木)	薬科学科卒業生発表(教務課)
	2(金)	平成30年度大学院博士後期課程(薬科学専攻)入学試験合格者発表
	3(土)	OSCE追再試験(薬学科4年次生)
		学内合同セミナー(薬業関連企業)
	9(金)	平成30年度大学院博士課程(薬学専攻)(2次・がん専門薬剤師養成コース)入学試験
	10(土)	平成29年度学部および大学院学位記授与式
	14(水)	進級者発表・未修得科目発表(教務課)
	16(金)	平成30年度大学院博士課程(薬学専攻)(2次・がん専門薬剤師養成コース)入学試験合格者発表
	21(水・祝)	オープンキャンパス
	27(火)	第103回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
29(木)	白衣授与式(4年次生)・実務実習伝達・報告会(5年次生)	
4月	3(火)	入学式
	9(月)	前期授業開始



サンシュユ (ミズキ科)

Cornus officinalis Siebold et Zuccarini薬用植物園長 教授 谷口 雅彦
薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介

サンシュユは中国および朝鮮半島に自生し、高さ5mほどになる落葉樹である。葉は互生し、楕円形で両面に毛があり、3月～4月頃に葉の出る前に明るく黄色の小さな花をつける。秋には2cmほどの赤い楕円形の実をつける。グミに似ているので食用になりそうだが、渋くて生食はできない。

名前の由来は、漢名の「山茱萸」を音読みしたものである。「茱萸」はグミを意味する。山中で秋にグミのような実をつけることから名づけられたようである。

江戸時代に種子が小石川御薬園にもちこまれ、薬用植物として栽培されるようになった。しかし花、実、紅葉が観賞用に適し、一般的には庭園や公園の樹木として見ることが多い。土の柔らかい根の張りやすい環境を好むため、粘土質の場所では、水切れを起こし葉先が枯れ、花、実ともに付きにくいことが多い。また、そういった場所では水はけが悪いために、うどん粉病などの病気がかかりやすい。

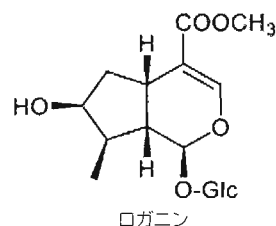
サンシュユの果実は偽果であり、真正果実は種子と思われている硬くて黒い核(サネ)と呼ぶ部分である。生薬は、偽果の核を

取り除いた果肉を乾燥させたものになり、核を抜き取った裂け目がある。果肉が厚く、酸味と渋みが強く、潤いのあるものが良品とされている。

含有成分の主なものは、イリドイド配糖体のロガニン、モロニシ

ド、セコイリドイド配糖体のスウェロシド、トリテルペンのウルソール酸、オレアノール酸およびタンニン等である。日本薬局方では、ロガニンをTLCで確認を行うとともに、HPLCでの定量法が規定され、0.4%以上含むものとされている。

漢方では、止汗、強壯、滋養の目的で八味地黄丸、牛車腎気丸(ごじゃじんきがん)、六味丸に配合されている。



参考 「薬草カラー図鑑」(主婦の友社)
「原色日本薬用植物図鑑」(保育社)
「第十七改正日本薬局方解説書」(廣川書店)
「生薬単」(NTS)

編集
後記

広報委員長 教授 辻坊 裕

学報76号を発行するにあたり、広報委員会のメンバーをはじめ、本学の教職員の皆様方に厚くお礼申し上げます。学報76号は、連載、トピックス、キャンパスニュース、報告などから構成されていますが、前号にも増して教職員ならびに学生にとって親しみのある内容に仕上がっております。是非とも手に取って読んでいただきたいと思っております。

学報76号のトピックスは、NEWキャラクター「だいやくん」の登場です。「だいやくん」の愛称は、ご想像通り「大薬(だいやく)」から由来しております。「だいやくん」のプロ

ファイルや誕生秘話は、学報に詳しく記載されていますので、ご覧ください。「だいやくん」は、現在本学の公式キャラクターではありませんが、教職員や学生の皆様のご意見・ご要望に基づいて育てていただき、いずれは本学の公式キャラクターにしたいと考えています。また、本学の公式Twitterで「だいやくん」のつぶやきや入学式、卒業式、ならびにオープンキャンパスなどに登場することも計画しております。なお、「だいやくん」は図書館に常駐していますので、ぜひ会いに行ってみてください。

これからも親しみのある情報誌として学生、ご父母の皆様方、教職員の皆様方に学報をお届けしたいと考えていますので、皆様方からのご意見・ご要望を是非ともお聞かせください。

▶ご意見・ご要望等連絡先メールアドレス [✉kouhou@gly.oups.ac.jp](mailto:kouhou@gly.oups.ac.jp) メールタイトルに「学報」と明記してください。

大阪薬科大学公式Twitterを開始しました!

大阪薬科大学では、Twitter(ツイッター)を使用した情報発信を開始しました。Twitterをご利用の方は、ぜひ「フォロー」をお願いいたします。大阪薬科大学公式Twitter (アカウント名:@OUPS_PR)